

営農ファイル

農産園芸部門

農作業メモ

1月号

ハウス胡瓜

気温の低下に伴い、果実肥大に時間がかかる環境になります。果実の肥大促進のため、午前中の温度を午後（14時位）まで延ばし、夕方まで冷やしすぎないように注意してください。

ハウスが開く時間が短くなり湿度が下がりにくく、病気が発生しやすくなります。循環扇、又は暖房機の送風（ボトキラーとの併用も効果的）を活用してください。着果負担により、草勢の低下、病気の発生が予測されます。べと病や菌核病等の予防防除を行うようお願いいたします。

暖房機の稼働時間が長くなり、乾燥により芯と葉が小さくなつてきます。灌水量が不足しないよう注意してください。また、葉面散布も行いましょう。（樹勢を見ながら）

曇雨天時には暖房機を使用して温度確保・湿度対策を行ってください。草勢が衰えないよう、加温を積極的にいり果実の肥大促進を優先してください。

肥大が鈍いからといって灌水量は控えめに、リン酸・加里の入った液肥を施肥してください。（トミグリーン688など）

いちご

厳寒期に入り、ハウスを締めきる時間が多くなります。こまめな換気を行い湿度が溜まりすぎないように注意してください。白斑葉枯病の発生が助長されます。

寒くなることで根から養分を吸収する力が低減します。葉面散布に切り替えるなど行い草勢回復に努めましょう。

トマト類

寒い時期に入り肥効が悪くなりますので通常の追肥の繋ぎとして液肥を使用してください。

着果負担による樹勢低下も見られますので葉面散布は定期的に行ってください。

急激に温度が低下した日や雨天後には疫病の発生が懸念されます。朝一ハウス内を全て巡回し早期発見、早期対応をお願いいたします。

葉の混みや病害葉には灰色カビが発生しますので早めの処理を行ってください。併せてハウス内の空気循環を行うようお願いいたします。

イチゴ

一番果が遅れ二番果も遅れ傾向の為、新葉の展開をスムーズにさせましょう。こまめな追肥で管理を行ってください。また、摘果・摘葉・電照・ハウス内加温等の操作を行い草勢維持に努めてください。また、寒さにより根から養分が吸収されにくくなっています。葉面散布等を定期的に行いましょう。うどんこ・ダニの防除を徹底するようお願いいたします。

いちじく

整枝剪定：剪定の方法によって、翌年の樹勢に大きく影響します。樹勢に応じて、強いものは結果枝を多く、弱いものは少なく残すように心掛けてください。また、近年カイガラムシの発生が増えていきます。粗皮・巻きづる等が病害虫

の越冬源となるため、粗皮剥ぎと巻きづるの除去及び発生園地については、農薬での防除を行ってください。

きんかん

収穫が近づいた果実に水滴が当たると裂皮及び病害を生じます。原因として、施設内の結露によるボタ落ちや薬剤散布・樹上灌水が考えられます。サイドビニールを日の出直後に上げ、日没後に下げ等の管理を行い、施設内の湿度を下げることで、ボタ落ち等を防ぎましょう。また、灌水は切らずに少量の灌水を行い、リング抜け（ヘタ周りの着色）を促しましょう。

露地みかん

みかんの樹は、冬期の低温に遭遇すると成長を停止し休眠します。休眠している間に園地内整備を行い、糖度の高い高品質みかんづくりに努めましょう。

カイガラムシ類・ハダニの防除：ハーベストオイル

※ハーベストオイルの散布は、樹勢衰弱園や厳寒期、強風時に行うと落葉を助長する恐れがありますので、注意してください。